

## 2. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 1. 国際化の取組

##### ○ 日本人学生の海外留学の推進

平成26年度に開設した英語のみの授業で卒業可能な国際教養学部は、1年次後期から約1年間の留学を必修としており、学生はアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアに分かれて留学した。これらを含み、**平成27年度の日本人派遣留学者は971名(全学生の12.4%)**となった。



〈ロンドン大学ゴールドスミスで学ぶ国際教養学部生〉

##### ○ 外国人留学生受入の拡大

海外留学生は、**五大洲47ヶ国・地域**から集まり、**447名(全学生の5.6%／平成28年5月現在)**が学ぶ。本学では、海外留学生と日本人が共に学ぶ環境を一層充実するため、現在ある国際学生寮(収容:男子100人／女子100人)に加え、**平成29年春には男子400人、女子144人の国際学生寮が完成**する予定となる。ここでは、日本人学生と外国人留学生が混住し、異文化コミュニケーション力を養成する。



〈日本人学生と海外留学生が混住する国際学生寮  
[平成29年春完成予定／男子寮イメージ]〉

##### ○ 海外留学生のための「日本語教育」の充実

日本語・日本文化教育センターでは、外国人留学生の増加に合わせて、入門レベルの日本語教育コースを追加し、5段階レベルから6段階レベルの学修コースに拡充し、多様化する日本語学習の環境を整備した。加えて海外交流校からの要望により日本語・日本文化研修プログラムを実施している。

##### ○ 海外交流協定校の拡大

学生相互間のモビリティを高めるため海外交流協定校の拡大に取り組み、47カ国・地域、148大学(平成26年度申請当時)から**54カ国・地域、181大学**(平成28年5月現在)へと拡大した。今後、交換留学や海外短期研修による相互交流を深めるとともに平成35年までに60カ国・地域、200大学へと拡大する。

#### 2. ガバナンス改革

##### ○ 外国人教員等の積極的採用

国際公募によって優秀な外国人教員を採用するとともに、海外の大学院で博士号を取得した日本人教員の積極的な推進などにより、**外国人教員等**(「外国人教員」「外国の大学で学位を取得した教員」「1年以上の海外教育研究歴を持つ教員」)は、**175名(全専任教員のうち49.2%／平成28年5月1日時点)**となった。

##### ○ 事務職員の高度化への取組み

海外大学での学位や就業経験をもつ人材を中途採用で積極的に雇用するとともに、職員研修の一環として一定の語学運用能力に到達した職員は、各自が独自に企画する海外派遣研修プログラムを実施している。**外国語力基準を満たす専任職員は49名(22.1%／平成28年5月1日時点)**となった。

#### 3. 教育改革

##### ○ 英語で専門科目を学ぶ「International Program (IP)」

「英語で学ぶ専門科目プログラム」を提供するため、10年以上に渡り経済学部で実施してきた「International Program」(英語で経済学を学ぶIP)を先行事例とし、以降、その他の各学部でもIP導入を進めている。

これらの取組により、**平成27年度の外国語による授業科目数は、学部・大学院合わせて203科目(語学科目除く)となり、全体の約5%が外国語による授業となっている。**

##### ○ 英語のみで卒業・修了可能なコース「English Medium Program」の拡大

**英語のみで卒業・修了可能なコース**として、従来の学部3コース[国際教養学部(1年次後期より1年間の留学が必修)、経済学部「SUCEED」、大学院1コース(TESOL)]に加え、大学院の工学研究科(3専攻全て)を開設し、**合計6コース**(平成28年5月1日時点)となった。

##### ○ シラバスの英語化推進

講義要項(シラバス)は、日本語の他、外国人留学生の履修実績の多い科目及び基幹科目を中心に英語化を進めている。**学部・大学院の全授業科目のうち約三分の一(33.5%／平成28年5月1日時点)**が英語で記載され、ラーニングアグリーメントを促進した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ 「人間教育の世界的拠点」を展望した本学独自の目標

GGJ事業の成果指標の取組については引き続き継続するとともに、本学は教育・研究機関として将来的にあるべき姿として、「人間教育の世界的拠点」を掲げ、「創造的世界市民」を育成するための「多様化と質保証を担保した国際化の推進」を測定するための独自の目標を以下の通り立てている。

【独自目標】(例)

#### ▶ グローバル企業の内定者の増加

・事業を通じて養成される人材のひとつの指標として、アメリカ・ビジネス誌「フォーチュン」が年一回発表するグローバル500社への内定を目安として掲げている。

[平成26年度・採択時] 105名 ⇒ [平成27年度] 132名 ⇒ [平成35年度・事業最終時(目標)] 200名

#### ▶ 交流する国・地域数の拡大

[平成26年度・採択時] 37カ国・地域 ⇒ [平成28年5月現在] 54カ国・地域

⇒ [平成35年度・事業最終時(目標)] 60カ国・地域

本構想における本学独自の成果指標と達成目標の考え方	
	1. グローバル人材育成推進事業で掲げた数値目標の達成と、それ以降の着実な進展 2. 創造的人間の育成と人間教育の世界的拠点の達成度を測定する7つの新たな指標の導入
GGJ事業で掲げた目標	<b>(1) 海外大学院進学者数</b> 卒業年度から2年以内に海外大学院へ進学する学生の人数(平成28年度で年間40名)を、 <b>平成35年度までに年間60名へとさらに拡大する。</b>
	<b>(2) グローバル企業就職者数</b> グローバル企業に採用される学生の人数(平成28年度で年間150名)を、 <b>平成35年度までに年間200名へとさらに拡大する。</b>
	<b>(3) 海外ボランティア参加者数</b> CIEEやその他のNPO法人を通じて海外でのボランティア活動に参加する学生の人数(平成28年度で年間100名)を、 <b>平成35年度で年間150名へと拡大する。</b>
	<b>(4) 海外インターンシップ参加者数</b> 本学が提供する海外インターンシップ・プログラムや、その他の団体が提供する海外でのインターンシップ・プログラムに参加する学生の人数(平成28年度で年間100名)を、 <b>平成35年度で年間150名へと拡大する。</b>
	<b>(5) 海外研修経験を持った公立学校教員の輩出</b> 本学では教職を志望する学生が多く、平成25年度では105名の学生が教員採用試験に合格している。教職課程に特化した海外研修プログラム等を通じ、 <b>海外研修経験を持つ公立学校教員を平成35年度で年間70名輩出する。</b>
	<b>(6) 海外研修経験を持った看護師の輩出</b> 本学の看護学部では、国際看護学に関する授業や独自の海外研修プログラムを通じ、グローバルマインドを持った看護師の育成を目指している。本構想において <b>海外研修経験を持った看護師を平成35年度で年間50名輩出する。</b>
	<b>(7) 多様な言語圏の大学との交流協定締結</b> 「人間教育の世界的拠点」を目指し、英語圏だけではなく、多様な言語圏に属する大学との交流協定を積極的に締結し、 <b>本学の学生を派遣する国・地域を現在の37ヶ国・地域から60ヶ国・地域へと拡大する。</b>
	<b>(8) アフリカ諸国での海外修学体験者数</b> 「共生」と「連帯」の理念を学ぶ海外修学体験機会拡大のベンチマークとして、アフリカ諸国での修学体験者数を拡大し、 <b>平成25年度の13名から、平成35年度で年間50名へと拡充する。</b>
	<b>(9) 非英語での外国語基準達成者数</b> 本構想において英語の語学力基準として設定したTOEIC730点に相当する、 <b>英語以外の外国語力・スコア(HSK5級(195点)、ドイツ語検定2級、等)を達成した学生数を平成35年度で年間150名まで拡大する。</b>
	<b>(10) 6単位以上の単位認定を伴う留学者数の拡大</b> 本構想において、ラーニング・アグリーメントの作成等を通じ、留学先で取得した単位を認定する仕組みを強化することで、 <b>6単位以上の単位認定を伴う留学者数を平成35年度で年間400名まで拡大し、国際的な高等教育の質保証に取り組む。</b>
	<b>(11) Creative Thinking Value Rubricを用いた創造的思考力の測定</b> 本学が掲げる「創造的人間」の育成の具体的な成果を測定する指標として、米国大学協会が提示している「Creative Thinking Value Rubric」を導入し、 <b>G.P.A.3の学生がMilestone 3の創造的思考法を獲得できるよう、教育プログラムを展開する。</b>

「創造的人間」の育成を通じた「人間教育の世界的拠点」へ

本構想で新たに追加する目標